

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス MORE中間校		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 (10世帯)	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	H8年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。 活動プログラムの立案をチームで行っている。	一人ずつ案を複数考えている。固定化されないように5領域を 考え、曜日で偏りの出ないようにしている。	5領域を考え、活動を組み立てていけるように。活動内容が 固定化されないように職員全員が新しいことを考えていける ようにする。
2	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下 校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡)を行っている。	学校との情報共有を心がけており、送迎時間の変更などがあつ た場合には迅速に連絡を取りあうようにしている。	送迎時に学校の先生とお話をするなどj情報共有をしながら 信頼関係も築き、連絡が取りやすい環境を作る。
3	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談 や必要な助言と支援を行っている。		

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運 営が図られていない。	地域との関わりが少ない。事業所の行事に地域の人を呼んだこ とがない(地域の人を呼ぶような行事を行っていない)	地域のイベントなどを情報収集し、参加できそうなイベント には参加をしていけるようにする。
2	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっ ているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリア フリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされていない。 。	玄関先の階段、草木が多い、室内に段差があるなどバリアフ リー化はされていない。視覚的ツールが少ない。	草木の剪定。視覚的ツール(イラストや写真)を増やしてい く。
3	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有できていない。	送迎の戻りがバラバラであり時間ギリギリの便もあり、終礼が できていない。	いる職員だけでも終礼ができるようにしていく。気づいた点 や支援の振り返りのできるような時間を作る。